

佐世保市立看護専門学校 平成 30 年度学校評価概要

佐世保市立看護専門学校では、自己評価による学校評価に取り組んでいます。学校の教育水準の向上を図るとともに、目的を達成するため、学校教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行ったものです。

教育理念

- 1、 人としての尊厳および権利を尊重し、人々の健康な生活の実現に貢献する使命と自覚をもった看護師を養成する。
- 2、 自主的に考え、主体的に行動できる看護実践力を備えた看護師を養成する。
- 3、 地域に貢献できる質の高い看護師を養成する。

教育目的・目標などは、便覧参照

平成 30 年度 自己点検・自己評価 (評価と課題)

項目	評価内容	自己評価
教育理念 教育目的 教育目標	教育理念・教育目的・教育目標は、常に学生や教職員が確認できるように学生便覧に記載して、各自が1冊ずつ持つようにしている。また、依存的で自己表現が低下している現代の学生が、疑問を抱き主体的に学んでいくよう支援を継続する必要がある。	3. 8
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校組織 ・ 学校会議等 ・ 教員適正配置 学校運営方針を掲げ、教職員に周知した。また、教務に関しては、15名の教員を配置、専門領域を2名体制として学生指導を行った。教職員間は、会議等での協議・報告し、情報の共有を図り円滑に業務遂行できた。今後は、計画的な教員確保を図っていく予定である。	3. 0
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程 ・ 学籍管理 ・ 単位認定 ・ 図書室の整備と管理 ・ 授業構築 ・ 教材管理 ・ 授業方法の工夫、研究 ・ 教員の研究、成果の発表 ・ 実習施設の要件 ・ 実習場の実習指導体制 教育課程については、教育課程一覧表及び学科目進度表、学年別年間計画を参考に、学生たちは学ぶことができた。また、授業に必要な教材は揃え、計画のとおり執行した。 3年生は6名が、3年間の皆勤賞を受けた。 実習に関しては、実習の目的・目標・評価基準を設けて実施した。また、各実習施設の実習指導体制が整っており、学生の実習での学びは充実したものだ。3年生学校評価アンケートの結果において、講義やシミュレーション学習および実習指導体制に関しては、満足、ほぼ満足を合計する	3. 0

	<p>・実習指導者との連携</p>	<p>と95%以上であり、学生からも教育活動について高い評価を受けている。今後も学生個々に応じた指導を継続していく必要がある。</p> <p>また、実習指導者の世代交代も生じ、今後も計画的に実習指導者養成を実習施設へ依頼していく必要がある。今年度は、2施設から1名ずつ実習指導者養成へ人材を出して頂いた。</p> <p>教員の研究については、学校協議会での研究発表を行うことができたが、教育学会で発表できるような研究にも取り組んでいく必要がある。</p> <p>学籍管理システムの導入により、成績や学籍入力において時間短縮を図ることができている。</p> <p>図書室に関しては、学生が自己学習で活用する姿は、よく見かけた。ケーススタディをまとめるときや実習前の事前学習時に図書の貸出冊数は多いが、ルールを守らない学生がおり、指導をしている。また、紛失図書はあるものの、紛失数は減少している。教員一人一人は、授業案を作成して、授業の工夫を図ってはいるが、実習指導との掛け持ちのため、十分な時間を確保できずに持ち帰りを余儀なくしている。今後は、ITを活用した授業の導入を検討して行く必要がある。予算を計上していき、教員のための教材として整備していきたい。</p>	
<p>入学</p>	<p>・入学に関すること</p>	<p>10月に推薦入試、1月に一般入試（前期）を実施した。今年度は、一般入試を平日に行ったが、特に問題はなかった。受験者数も昨年と変わりなかった。3月に一般入試（後期）を行った。</p> <p>受験生を確保するために、高校生対象の進路ガイダンスには殆ど参加をして、本校のPRに努めた。しかし、少子化の傾向は今後も続くため、高校生だけでなく小・中学生まで拡大したPRに努める必要がある。また、同時にホームページの内容の工夫も課題である。ポスターや訪問などで市内の学校への本校のPRを強化していく必要がある。</p> <p>今年度は、推薦入学予定者を対象に入学前学習について説明会を行った。入学前の学習として看護学生に必要な科目のドリルとワークブックを活用して看護の覚え書を読むことを課題とした。入学</p>	<p>2. 8</p>

		<p>までの期間を活用した学習の継続をはかった。</p>	
<p>学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習環境及び学習支援 ・ 生活支援 ・ 国家試験合格支援 	<p>学生の経済的支援として、日本学生支援機構の奨学金制度を活用しやすいよう情報提供した。また、学生の個々人に合わせて、病院からの奨学金を受けられるような支援も行った。</p> <p>学生の無断欠席が続く場合は、安否確認を行い、メンタル面のサポートを必要とする学生や学習の進捗や内容の特徴を考慮して、カウンセリングを必要と考える学生には、1回/月実施している学生支援の臨床心理士へ繋いだ。また、ボランティアの相談日も1回/月設けるなどの体制を継続した。</p> <p>継続的に関わっていただく学生もおり、学校と連携しながら支援した。</p> <p>季節の流行性の感染症については、啓発と共に予防接種を実施し健康管理に努めた。</p> <p>水曜日を除き、時間外申請を提出すれば、19時まで学習・演習ができるように校舎を解放し、時間管理も兼ねて支援した。3年生の学校評価アンケートにおいて、学習環境は93.5%の学生が満足とほぼ満足と示している。教室・図書室以外に学習する教室が少ない環境の中で、公平に学べるよう移動教室などで工夫していることの継続が必要である。</p> <p>国家試験については、国試対策担当教員を中心に国試の分析・傾向からの対策を立て、特別講義を実施した。また、学生をグループ化して担当教員を配置し、きめ細かに支援した。学生全員が合格できた。</p> <p>毎年、学習の進捗に伴い、学生間に能力の差が生じることから、早期からの国試対策を講じていく必要があり、学生自身の国試に対する意識の向上を図る必要がある。</p>	<p>3. 1</p>
<p>就業 進学 卒業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路決定 ・ 卒業生の把握 	<p>2年次の夏休みの課題に、県内の医療機関を調べさせて、情報収集させた。また、市内の医療機関による学内就職説明会を開催し就業意欲を高めた。個人でインターンシップに参加して受験する学生もいた。自分が就職したい病院のパンフレットを持参し、2年次の2月から3年次の5月初旬まで相談に応じるなど積極的な行動が見られた。また、進学の希望者もおり、8月から1月までは</p>	<p>3. 5</p>

		<p>推薦や入試の相談に応じ支援をした。このような取り組みが、それぞれの学生が志望する進路へ繋がった。市内就職者は、卒業生 76 人中 43 人の 56.6%、県内就職者は 89.5%であった。前年度の卒業生に対し、卒業後 2 ヶ月目に近況報告を兼ねてリフレッシュ目的で学校へ集合してもらいフォローした。今後も医療機関と連携を図りながら、卒業後の就業・生活状況などを把握し支援していく。</p>	
<p>地域社会への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携と社会への情報発信 ・実習施設との連携 	<p>受験者等へ本校の情報を的確に提供するため、ホームページをリニューアルしアップしてきた。また、今後は学校での催しに小・中・高校生の多くを参加いただくように、工夫を重ねたい。</p> <p>オープンキャンパス、市看祭には、多くの学生や保護者あるいは地域の方々に参加いただいた。また、医療機関の催しに学生ボランティアとして参加した。3年間の養成所における教育課程は時間が過密であるため、学生の負担にならない状況でボランティアの精神と実行ができるよう支援している。その中でも実習施設の医療機関の防災訓練やクリスマスコンサート・夏祭りなどに参加しボランティア活動を行うことができた。今後も学生の学習効果に繋がるよう支援する。</p>	<p>3. 0</p>
<p>国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視野を広げるためのシステム 	<p>佐世保市の特徴として街中にも海外の人々が往来する環境にあり、国際医療に興味を持っている学生もいることから、今後活躍することを視野に入れたシステムを構築する必要がある。そのためには、海外で活躍している本校卒業者や長崎県内の看護師などの講演などを計画し、学生に国際交流を身近なものと感じられるようにしていく必要がある。</p>	